



撮影場所：巾着田（埼玉県）

しょうゆう  
尚友  
— 人物を創る —

コロナ感染下で開催された東京オリンピックは、無観客という異例の開催であったにも関わらず、数々の感動のドラマを残しながら終わりました。

世界中でこの大会を通して、スポーツの素晴らしさを改めて感じた人も多かったと思います。

しかしながらオリンピック後の日本を考えた時、多くの問題が山積し、決して明るい状況下にはないのも現実だと思います。

昭和の日本の碩学故安岡正篤先生の著書「活眼活学」の中に

「真にその国民の偉大さに関するものは、領土や資源や貿易ではなくて国民の能力であり、国民の精神である。これの旺盛な国民は必ずどんなに困ってもまた勃興する」

と書いておられます。

今日、日本のさまざまな問題の根源は、各分野に才知有る人はいても、有事に力を発揮出来る人物が少ない事に有り、それは互いに啓発し合って人物を磨く環境が失われてきている事に起因する様に思います。

中国の古典「孟子」の中に

「いったい友達というものは類をもって集まるもので、一つの郷内で優れた人物はやはり同じ郷内での優れた人物を友達とする。一国での優れた人物はやはり同じ国内での優れた人物を友達とする。さらにまた天下での優れた人物はやはり天下での優れた人物を友達とするものだ。天下の優れた人物を友達としてもなおかつ満足できなければ、さらに昔にさかのぼって古の聖人や賢人を論じて友達とするものだ。これが『尚友』すなわち『さかのぼって古人を友達とする』ということなのだ」

と書いてあります。

ITの著しい進化により、瞬時にさまざまな情報を収集し、遠隔で会議や会話が出来る時代ではありますが、やはり、人間は人間との直接的交流の中でしか磨かれられないものだと思います。

戦後、夏季二度、冬季二度にわたってオリンピックを開催した日本が、再び活力ある国家、国民として復活してゆく為にも我々は個々に互いに研鑽し合う友人を持つ他に、書物の中に、あるいは意中に「尚友」を持つ努力をし、自己を錬磨する様にしていきたいものです。

徳真会グループ  
代表 松村 博史